

新1年生オリエンテーション

平成28年度宮崎大学教育学部（4月から教育学基部に戻りました）の入学式が終わった翌日5日（火）に新入生オリエンテーションが行われました。

その場で、前田稔新会長が木犀会の紹介と説明を行いました。現在、入学に伴う新入生の加入は20名を超えたところです。

教育学部として独立しましたので、木犀会としてもこれからの学生支援の一層の強化をはからなければなりません。

オリエンテーションの様子と会長の話の骨子をお知らせします。

〔添田学部長あいさつ〕

1. 自己責任

学習はもちろん、生活全般について、すべて自己責任が伴う。

聞いていない。知らない。指導されていない。等の言い訳は通用しない。

生活は自由であるが、自己判断が求められる。履修は4年間であるが、経済上、身体上の問題で履修が困難な場合は、8年間で上限に履修することが認められる。

2. 相談することの大切さ

解決困難な問題を自分だけで背負わないこと。周りの先輩や同僚、諸先生方に相談して解決を図るとともに周りを頼ることが大切である。

〔前田会長あいさつ〕

1. 木犀会の紹介、

秋の代名詞とも言われる「金木犀」にちなんで名づけられた同窓会である。創立131年の伝統を誇る会である構成員は現役の教員、終身会員、退職会員、からなり、1昨年から学生を「準会員として」迎えることになっている。入学と同時に木犀会のメンバーである。合格通知とともに同封された「木犀会の御案内」を読み、ゆうちょ銀行の払込取扱票に2万円添えて送金していただきたい。



2. 学生への就職支援活動

各種の支援活動があるが、大きいものは、就職支援である。昨年の採用者数は会報の13ページにあるとおり、小中学校25名、県立学校15名、計40名で相変わらず狭き門となっている。木犀会の先輩諸氏には学校現場を知り尽くした、優秀な人材がおります。教員採用一次試験、二次試験への対応として貴重な話が聞けると思います。



新会長として学生支援
について約束します。
教師としての基礎固め
をしてください。

緊張の面持ちの
新入生たちです。
教員を目指して、
精一杯がんばろ
うという意思の
強さが表情に表
れています。



今年から定員120名
の教育学部としてスタート
した我が母校。

教育学部として教員養成
のあり方が評価されて
いる時代です。

「絶えず学び続ける教師」
としての基礎を築いて
ほしいものです。その
ためにも木犀会としての
支援のあり方が求められ
ます。